

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570500369		
法人名	株式会社ナガオカ		
事業所名	グループホーム悠愛		
所在地	滋賀県東近江市五個荘竜田町528-4		
自己評価作成日	令和4年1月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensakumhlw.go.jp/houkoku/25/.
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山7丁目8番138号		
訪問調査日	令和4年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「気兼ねなく暮らせる第2の我が家」の理念を基に、自立と尊厳を基本として自分らしく過ごして頂ける様に支援を行っています。家事が好きな方、畑仕事が好きな方等、違ったライフスタイルの方々に趣味や特技を大切に、庭にある畑に野菜や花を植え、収穫して皆で食べたり、テーブルに花を飾ったりと、特技をいかし、生き生きとした毎日を送って頂けるように支援を行っています。一方で重度化されておられる利用者様に対してご本人・ご家族様のご要望に応じ、住み慣れた所で最期を迎えて頂ける様に医療連携体制を整えております。利用者様が安心して自分らしく暮らせる様、職員一同、務めさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歴史ある近江商人の町、住宅街の中にグループホーム悠愛はある。施設前の広い庭には利用者の好みに合わせ四季を通じた花や野菜を育てており、リビングから眺めることができ楽しみの一つとなっている。お風呂が好きなら毎日でも入浴できたり、糖尿病や心疾患など疾患に合わせた療養食もある。利用者も参加しての手作りおやつも好評だ。医療連携体制を整え、看取りの研修にも積極的でチーム一丸となり終末期ケアに取り組んでいる。また実績も積んでおり、利用者や家族の信頼や安心にもつながっている。管理者としては経験が浅いが、利用者に対する熱い思いを持っており、職員からの信頼も厚い。皆生き生きと働いており、それが利用者に対しても良き支援につながっている。コロナ禍で制限がある中、少しでも施設の外に出て肌で季節を感じてもらおうと努力されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気兼ねなく暮らせる第二の我が家」の理念を目標に利用者様が『自分らしく』過ごして頂ける様に管理者、職員が話し合いを行い1人1人に合ったケアが出来るように取り組んでいる。	遠慮や気を使っているのではと感じる方に対し、自分の家のように過ごしてもらうには。言葉では伝わりにくい場合、どう理解してもらうか等、会議や日々の申し送り時に皆で意見を出し合いより良いケアを模索している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で交流は難しい状況です。	職員は地域の認知症早期発見訓練の委員として毎年会議に参加。地域の民生委員と顔なじみになり、祭り等の情報をもらうが、人混みが多く交流ができてない。本社が町内の役をする等、地域からは受入れられている。	交流できる日のために、施設だよりを年数回でも発行し、回覧板の活用や家族、民生委員、運営推進会議等で配布して、施設の活動を広く皆さんに知ってもらってはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響で交流は難しい状況です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、書面会議しか今は難しい状況です。	利用有家族、地域の自治会長や民生委員も参加し会議をしていたが、コロナ禍で書面開催となった。開催を予定しても欠席者が多い中、11月のみ行えた。会議では取り組みの報告と共に災害時の協力も呼びかけている。	運営推進会議の開催が困難になり、なかなか意見が得られませんが、メンバーには今後も積極的に意見を求め、サービス向上に活かしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点等は市担当部署に問い合わせや直接市役所まで行き確認する様にしている。	管理者としてわからないことが多く、市役所に出向いては直接教えてもらった。コロナ禍での混乱の中、例年以上に市役所と連絡を取り合った。ワクチン接種では頼み込んで直接動いてもらったりと、協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は年4回実施予定。内部研修にてスピーチロック等の身体拘束を考えケアに努めている。	内部研修ではセンサーマットについてなど毎回テーマを決め、本人の思いやその時どう感じるか等話し合いながら、どうすれば安全に過ごせるか意見交換をしている。普段から気づかないうちに言葉で行動を抑制していないか、ケアを振り返って互いに点検している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常の介護において知らず知らずのうちに虐待になっていないかスタッフ全員で話し合う機会が多く高齢者虐待テキスト等でスタッフ会議で学習している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度及び成年後見人制度を利用している利用者様が逝去された事があり、スタッフ一同必要性・関係性を学習する良い機会であった。これを踏まえ活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時に利用料金やサービス内容について説明を行い入居時に細かい説明を行い本契約を行っている。契約の改正や制度改正契約の終了時には説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナの状況下、家族様とは電話連絡や手紙等になってしまっているが病院へ薬貰い等で来苑された時には直接お話を伺って出来る限り反映出来るように努めている。動画を撮り携帯へ送らせて頂く方もおられる。利用者様からの要望は少ない。	意見箱を設置したり、電話連絡時や来訪時にこちらから問いかけて何でも言ってもらえるよう努めているが、家族からの意見や要望はほとんど無い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りにてケア内容について意見交換を行っている。個人的に話がしたい場合は適時、面談を行い、現場で対処出来ない事は本社へ相談している。	職員からの意見はよく出る。オムツの種類の提案や足湯に加え手浴の提案、食事形態や飲みにくい薬のこと等。医師や薬剤師の意見も聞きながら、出た意見は皆で話し合い、改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役員会議にて管理者より代表者へ報告を行っている。勤務状況等は職員の希望に添う事が出来るように調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のスキルアップに協力的である。去年より新型コロナ発生により外部研修への参加が出来ず、今年2名認知症基礎研修に参加できた。現在は訪問看護・訪問歯科により内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が開催している事例検討会へ参加することで他のグループホームとの意見交換を行う事ができている。そこで知り合った介護関係者とネットワークが広がり繋がりが広がっている。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報にてご本人や家族様の思いや希望を優先的に考慮し面談時には本人の維持能力を考慮しながら本人様の言葉に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族様が困っている事や希望をお聞きしどの様に過ごして頂きたいと思っているのかに耳を傾け来苑時等に家族様のお話を伺い要望に添う事が出来る様、務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の潜在能力を把握し出来る事は本人様に行って頂く支援をしている。長寿福祉課・訪問看護・福祉用具・薬局との連携体制も整えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から学ぶ事はたくさんある。出来なかった事が出来たりすると本人様も笑顔が出て嬉しそうなお顔をされる。それが職員のやりがいに繋がっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は電話での家族様対応になってますが、頻度が増え家族様との距離が近づいたように感じています。逆境こそ力を合わせていると感じています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの終息が見えない今、困難な状況です。	コロナ禍でも感染に気を付け、できるだけ外出の機会を作っている。ドライブや徒歩で神社や普通小学校など懐かしい場所を回ったり、一時期コロナが落ち着いた頃に馴染みの方と面談ができるよう工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士、普段の様子から食事席には配慮している。何度も席替えを行いながら合う席を探す事もある。孤立しがちな利用者様には職員が関わり他の利用者様との関係づくりを繋げる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、ご家族様の了解を得て退所先の施設等情報提供を行っている。退所後ご家族様に電話にてお話を伺っている。また、退所先の施設からの問い合わせがあれば対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の環境等を参考にし安心して暮らして頂けるような環境作りを心がけている。	テレビを見るのが好き、花が好き、布団で寝たい等、できるだけ入居前の生活と変わらないよう配慮している。把握が困難な方には毎日のかかわりの中で表情やしぐさ等から読み取り、確認して対応し皆で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や居宅のケアマネ等から情報を収集している。入居後もデイサービスなどを利用されていた時の情報を担当者に聞くこともあり、これまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態等、普段の様子と違ったことがないか日々注意し異変の早期発見につながるよう努めている。残存能力を活かして頂ける事を見つけるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化に気を配りケアの変更が必要になった場合は職員と会議を開催し検討している。食事の極端な減少などに関してはご家族や主治医との話し合いの場を持っている。訪問看護師とも連携はとれている。	より良く暮らしてもらうために、主治医や訪問看護師、訪問歯科や歯科衛生士からは口腔ケアについて意見を求めている。家族の思いや意向を聞き取り、職員全体でモニタリングや意見交換し、計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録及び日報等に日々の様子を記録し小さなことも職員間で共有出来るようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能なサービスには取り組めていない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源サービスの中に取り組みたいと考えているが、コロナが終結しない現状で地域との交流は難しい。グループホームのだけでなく豊かな暮らしを応援出来るように支援したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を十分に聞かせて頂き、主治医を決めて頂いている。適切な医療が受けられるように支援できている。	9名のうち7名が提携医だが、2名は入居前からの主治医を継続中。他の病院へ家族同行で受診する場合はホームでの様子を書き込んだ受診記録帳を渡し、また受診先からそれに記載してもらうようにして連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の来訪時には日々の情報を伝え相談できている。急変時にも対応が出来るように日々連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の相談員に情報提供し入院中の情報も、もらえるように情報交換に努めている。退院時には退院前にカンファレンスを開いてもらうようお願いしている。カンファレンスの記録は主治医や訪問看護師とも共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	食事量が低下してきた場合はご家族に連絡を取り今後の事に関し出来るだけ早く話し合いの場を持つようにしている。事業所で出来る事・出来ない事をご家族に説明させてもらいターミナルケアに取り組んでいる。	訪問看護師が講師となり、看取することを前提とした研修を実施している。医師や訪問看護師と連携し、後悔しない最後を安心して迎えられるよう意向を確認し、家族の思いを共有して看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についての研修は行っている。現在コロナ渦において外部研修は考えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、年2回の避難訓練や誘導訓練を行っている。近年、水害の被害が多発しているので水害時の訓練も行っている。非常食や水・衛生用品の備蓄も行っている。	災害マニュアルや緊急連絡網あり。市に訓練の報告書も提出している。体験することで職員からの気づきやアイデアもあり。車いすを多めに設置することとなった。非常食は3-4日分備蓄し、定期的に入替えも行っている。	避難訓練には近所の民生委員や自治会、行政にも声をかけ、協力体制を築いていきたいと思います。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や価値観はそれぞれ違います。利用者様が大切にされている事を把握する事に努め人格を尊重し傷つけない対応に心がけている。	外部研修に参加し学んだことを伝達研修を通して、他職員に伝えている。又、年間の内部研修のスケールにもプライバシーの研修が組み込まれており、事業所全体で意識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな食べ物や苦手な物を聞き取り出来るだけ希望を取り入れている。ご本人の好きな洋服を毎日選ぶ事も大切な日課の1つと考えている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースは日々違いますので起床・就寝はその日の様子を見ながら行っている。日中休みたい方は自分の意思で自室に帰られる。レクリエーションは個々の好きな事をして頂いてます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日に何度も衣装を着替えられる利用者様もおられる。その色は今日は嫌だとおっしゃられると一緒に選んで利用者様の納得する服を決めて頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は宅配サービスを利用している。月に1度、手作り昼食の時には利用者様に何が食べたいかをお聞きし決定する。野菜や果物の皮むき等、出来る事を手伝って頂く。ケーキ作りは月に何度も行っていて生クリームの飾りつけ等 楽しまれている。	利用者個々の病気などに適した食事(塩分控えめなど)や形態になっている。利用者には、できることを無理なく行っていたいっている。おやつ作りも積極的に取り入れ食べる楽しさを感じられている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人病気がある方等、全てが違うので食事形態も違えば食べる早さも違います。その方に合わせた量や栄養を提供している。水分量の少ない方は何度かに分けて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科により定期的に情報交換を行いその方に今、合ったケアの方法を教えて頂きスタッフで共有して統一したケアが行えるように努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄の状況を把握し失禁の無いよう誘導を行うよう声かけを行っている。トイレ拒否された時には時間をおきタイミングを見る工夫をしている。	排泄チェック表に、声掛けのタイミングや定時誘導の時間を記載し、失禁や利用者の不快感を少しでも減らすように努めている。水分摂取量にも注意を払っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて便秘を把握している。軽体操を行ったり乳製品等の提供を行っている。それでも排泄が無い場合は主治医や訪問看護と連携をとり医療的な対応お行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を希望される方には毎日対応している。便汚染がある場合は急遽でも入浴対応している。拒否される場合は日を改めタイミングを合わせて行っている。体調によっては清拭対応の場合もある。	毎日、入浴の日を設け毎日入浴したい利用者の希望にも沿っている。また、入浴の順番なども決めずに、利用者の入浴したいという気持ちを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様に合わせて日中でも臥床時間を設ける。利用者様の意思や身体への負担を軽減できるよう対応している。就寝時間も一人一人違うので自己決定していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容については医師や看護師・薬剤師と連携し薬の目的・副作用・服薬方法等について確認している。申し送りやスタッフ会議で職員にも伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人得意な事が違うのでそれぞれの違った潜在能力を活かして頂き楽しみながら好きなこと行ってもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は近所の散歩のみ	利用者の何気ない「和菓子が食べたい」「コンビニへ行きたい」などの願いを叶えたり、近隣の学習センターへ展示物を観覧しに行ったり、コロナ禍でも外出の機会を大切にしている。事業所のデッキで日光浴もおこなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ渦の為、買い物も現在は中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙を希望される方はおられないが、動画にて家族様に送らせて頂くかたもおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々に畑で咲いた花を利用者様と摘みテーブルに飾ったり、クリスマス・こどもの日等、一緒に飾りつけを行っている。廊下や居室は環境整備を行い心地よく過ごして頂けるように努めている。	室内の温度には気を配り利用者が起床する何時間も前からフロアを温めたり、ヒートショック防止にも努めている。又、共有スペースには、折り紙で作った季節の飾り付けがされており、落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席については日頃からの様子を見て気の合った利用者様同士、気兼ねなく過ごして頂けるよう配慮している。廊下にはソファがあり、ゆったり過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を出来る限り持参して頂いている。居室の家具の配置は戸惑われないよう入居時と変化させないようにしている。お孫様の写真を飾られる方やお花(造花)を飾られる方などおられる。	入所前に自宅での様子を把握し、入所後も戸惑ったりされることがないように、馴染みの物を持参いただいている。又、居室は畳となっており、布団を敷くことを希望される利用者もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所をわかりやすく壁に標示したり、コップ歯ブラシには名前を入れ間接的に自立支援を行っている。環境整備は安全に欠かせないものとし介護と同様に重要であると考え行っている。		

事業所名 グループホーム悠愛

作成日: 令和4 年 1 月 22 日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
	2	新型コロナの影響もあるが、日常的に外出や地域との交流が不十分である。	新型コロナを踏まえて、地域との交流は難しいが、散歩だけでも外出する機会を設ける。	利用者様が外出等で地域の方々と交流がもてる機会を作る。新型コロナの影響で外出もままならない期間が続き散歩や畑仕事等で利用者様のストレス解消が出来るような環境を作る。	12ヶ月
2	35	コロナ渦の為、外部研修への参加が難しい。	スキルアップにおいて外部研修は重要であるが現状では難しい為、訪問看護・歯科に協力を得て内部研修を行う。	介護職員以外の専門知識の方たちにおける内部研修を行う事によってスキルアップを行う。それがチームケアにも繋がる。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()

認知症対応型共同生活介護事業所にかかる自己評価および外部評価項目

項目番号		項 目	
自己 評価	外部 評価	タ イ ト ル	小 項 目
I 理念に基づく運営			
1	1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意識を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている
2	2	事業所と地域とのつきあい	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している
3		事業所の力を活かした地域貢献	事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている
4	3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている
5	4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる
6	5	身体拘束をしないケアの実践	代表者及びすべての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる
7		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている
8		権利擁護に関する説明と納得	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している
9		契約に関する説明と納得	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている
11	7	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている
12		就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている
13		職員を育てる取組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている

14		同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		初期に築く本人との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている
16		初期に築く家族等との信頼関係	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている
17		初期対応の見極めと支援	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている
18		本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている
19		本人を共に支え合う家族との関係	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている
21		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い垂、支え合えるような支援に努めている
22		関係を断ち切らない取組み	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	思いやりや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。
24		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている
25		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している
27		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている

28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる
29		地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している
30	11	かかりつけ医の受診診断	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している
31		看護職員との協働	介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している
32		入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる
34		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている
35	13	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている
38		日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している
39		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している
40	15	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている
41		栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている
42		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている

43	16	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている
44		便秘の予防と対応	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる
45	17	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた予防に取り組んでいる
46		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している
47		服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている
48		役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている
49	18	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している
50		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している
51		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている
52	19	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している
V. アウトカム項目			
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23、24、25)	1. ほぼすべての利用者の ②. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない

57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	①. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼすべての利用者が ②. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	1. ほぼすべての利用者が ②. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼすべての利用者が 2. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが ④. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	①. ほぼすべての利用者が 2. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	①. ほぼすべての利用者が 2. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	1. ほぼすべての家族と ②. 家族の2／3くらいと 3. 家族の1／3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:9、10、19)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに ④. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ③. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	①. ほぼすべての職員が 2. 職員の2／3くらいが 3. 職員の1／3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼすべての利用者が ②. 利用者の2／3くらいが 3. 利用者の1／3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼすべての家族等が ②. 家族等の2／3くらいが 3. 家族等の1／3くらいが 4. ほとんどいない